# エコアクション21環境経営レポート

# 活動期間 2019-1 月~2019-12 月 2019 年度



株式会社 オートアベニュー 2020年2月26日発行 2020年3月5日改定

# 1 会社概要

事業所名 株式会社 オートアベニュー 代表者氏名 代表取締役 伊藤 理香

所在地 〒188-0011 東京都西東京市田無町7-18-8

環境管理責任者 飯野 勇

連絡先 〒188-0011 東京都西東京市田無町7-18-8

TEL: 042-466-3233 FAX: 042-465-5101

E-mail: isamu-iino@auto-avenue.co.jp

事業規模 社員数 19人

社屋床面積 116.05m<sup>2</sup>

売上高 1,122(百万円)(2019年度:2019年1月~2019年12月)

適用範囲 全社・全組織

事業内容 自動車販売・整備及び宅配用バイクの販売・整備・レンタル業、損害保険代理店業

対象事業所本社・工場

# 2 環境経営方針

#### 環境理念

地球環境保護、二酸化炭素排出量削減が世界的に叫ばれる現在、当社の企業活動を通じ、この緑豊かな武蔵野台地の環境を守り、地域社会に貢献できる企業を目指します。

環境問題は、自動車整備・販売に携わる事業者の最重要課題です。自社における二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、使用水量の削減に取り組むと共に、顧客へのエコ整備の普及・促進を通じて、燃料消費率向上による二酸化炭素排出量の削減や、排出ガスの清浄化を目指します。また、低公害車の販売に努め、地球環境及び地域環境の保全に配慮して行動します。

#### 環境行動方針

当社は、環境との共生・調和を最重要課題として認識し、自ら責任を持ち全従業員をあげて環境負荷の低減に配慮した活動に取り組みます。そのために、以下の「環境行動方針」を定めます。

(1) 二酸化炭素排出量・削減の推進

事業活動に於ける電力・ガソリン・軽油などの削減による二酸化炭素排出量の低減に努めます。また社用車においても、急発進、急加速、急停止などを排除し、やさしい運転に努め、エコドライブを励行し自動車使用による環境負荷の低減に努めます。

(2) 廃棄物排出量・削減の推進

事業所から出る廃棄物を最小限にする努力をします。そのために、分別処理を徹底し、リサイクル化を推進します。

(3)総排水量・削減の推進

事業所内で使用する使用水量の削減により、総排水量の削減に努めます。

(4) エコ整備・エコ車検の推進(お客様における二酸化炭素の削減)

自動車における燃費の向上による削減や、有害な排出ガスの削減を目ざし、エコ整備・エコ車検を強力に推進します。そのために、エコ整備の有用性についての説明に努めます。

(5) エコカーの販売促進(お客様における二酸化炭素の削減)

大気汚染物質の排出が少なく、環境への負担の少ない車両を積極的に販売していきます。 そのために、エコカーに限定したチラシを作成し、販売促進に努めます。

(6) リサイクル活動による省資源化の推進

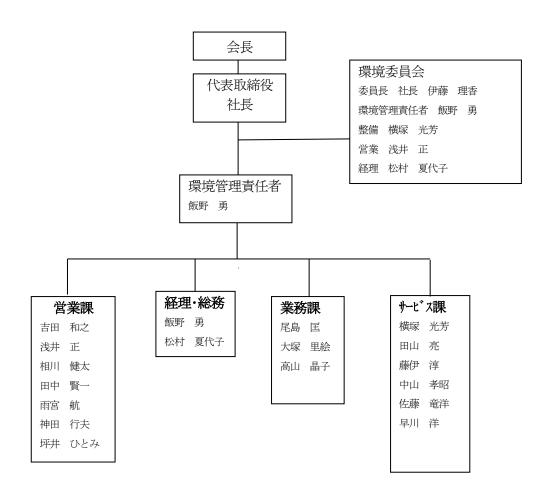
省資源のために、リサイクルの自動車部品及び三輪バイク部品の使用を積極的に推進します。 プラゴミのリサイクル回収を推進します。

(7) 環境関連法規制等の遵守

環境関連法規制等を遵守することを誓約します。

平成21年3月 1日制定平成27年2月20日改定

# 3 環境管理組織



#### 取締役会長

1. 記録・報告及び見直し記録に対する全般的な指示をする。 月に一度の各エコチームリーダーの取りまとめた数字に基づき、全社としての取り組みを把握し、 更なる社員の啓蒙活動への指示を文書にて行い指示記録を保管する。

代表取締役(当社の環境経営最高責任者として次の役割を負う)

- 1. 環境方針を定め、環境管理責任者、環境管理委員を任命する。
- 2. 環境経営システムの実施・運用のための経営諸資源を準備する。
- 3. 環境目標、実施計画の承認。環境経営マニュアル及び規定類の制定・改訂の承認。
- 4. 環境経営システムの見直し。

#### 環境管理責任者

- 1. 環境委員会を運用・維持管理する責任として、環境経営システムが全ての部署で確実に実行、維持されるための必要な活動の管理と推進をする。
- 2. 環境経営マニュアルの作成、改訂を行う。
- 3. 会長に環境経営システムの実績の報告及び見直し記録を報告する。

#### 環境委員会

代表取締役を委員長とし、環境管理責任者及び会長から選任された委員で構成し、環境方針、環境目標、実施 計画、教育訓練計画等会社の環境に関する事項の審議、立案及び運用状況の評価等を行う。

#### 従業員

日常の作業において、環境方針に基づき、環境管理システム規格類及び関連する法規制とその他の要求事項の順守。

# 4 環境経営目標と実績

運用期間(2019年1月から2019年12月:12ヶ月間の実績)運用期間%は目標に対して

環境負荷		単位	基準期間		運用期間	評価
			2012年1月	2019 年度目標	2019年1月	
			~2012年12月		~2019年12月	
購入電力		kWh	63,647	42,000	36,848	
				対 12 年度対比	00,040	0
				前年維持	-12%	
	ガソリン	Q	10,345.18	7,700	6,084	0
				対 12 年度対比	0,001	
				前年維持	-21%	
化石燃料	軽油	Q	790.52	5,300	6,078	×
				前年維持	14%	
	灯油	Q	996	1,250	730	0
				前年維持	-41%	J
		kg-Co <sup>2</sup>	52,633.11	57,202		0
$CO^2$	排出量			対 12 年度対比	49,080	
	が田王	Ng OO		7) 12 <del>-</del> 127120	-14%	
				前年維持%		
				数値目標設定せ	307	1
水道∙	排水量	$m^3$	375	ず	_	
				節水に心がける		
コピー用紙		Kg	449.5	424	436	×
	一一一一一一一一一一			前年維持	3%	
一般	可燃	kg	排出量実績値 188.8	160		×
廃棄物				前年維持	217	
76.X 173				13.3 - 1.4/12.1.4		
	金属廃棄 物	kg	1,240	2,200	595	0
				前年維持	-72%	
産業	廃プラスティック (ボックス)	kg	4,971.2	12,000	16,223	×
廃棄物				前年維持	137%	
	汚泥	kg				_
_ > > > > > > > > > > > > + > > + > + >	ンタ /ロンサ /ン 半4	台		40	10	
エンンン洗 	エンジン洗浄促進台数		0	10	100%	0
低公害車販売台数 (中古車含む)		台	152	140	219	0
					156%	
N= /-**				エコドライブの実	-÷-1-	
エコドライブの実施				施	実施	_
エコ対応製品販売数	エコタイヤ	本		500	482	×
					96%	
	添加剤類	本		210 本	149本 70%	×
		金額		1120 千円	1248 千円 111%	0
	リピルト・	個		ジャイロ 600 個	495 個 82.5%	×
	中古部品	金額		自動車 200 千円	251 千円 125%	0
*エコ製品の販売欄に関しては、目標達						

\*エコ製品の販売欄に関しては、目標達成率としています電力のCO2換算係数は、0.474Kg-Co2を使用

LPG: 少量なので未記載セルの黄色部分のパーセントは達成率を表記

CO<sup>2</sup>の排出量は目標数値より減少しました。 総合的に目標値に対し未達成の項目が減少しました。 各々の10%超の増減要因は下記の通りです。

#### 運用期間中の目標値に対する増減10%超の要因

#### 目標達成原因

#### 雷力

2019年度は、営業・事務スタッフの残業時間が減り、結果として事務所の電力使用量が減ったことによる。 ガソリン

社用車にハイブリッド車を2台採用したことにより、ガソリン消費が減ったことによる。

#### 灯油

事務所の暖房に石油ストーブを使用しておりますが、2019年度は、残業時間削減で従業員の退社時間が早まり、 石油ストーブの使用時間が短縮したことによる。

#### 産業廃棄物 (金属廃棄物)

バイク中古部品製作のために分解したバイクから出た金属を廃棄せずに、鉄の買い取り業者に販売した結果、 金属ゴミの廃棄が減少したことによる。

#### エンジン洗浄実施台数

エコアクション21の取組当時(2010年3月)から9年が経過し低年式車が減少傾向にあります。 そのためエンジン洗浄は、環境水準非対応の低年式車の車検のお客様に対し声掛けを実施する目標に切り替えました

年間10人のお客様に声がけを実施しましたが、お客様自身の予算の関係など施工実施には苦戦しています。 今後はエンジン洗浄よりもエコ製品の販売促進に力を入れていきます。

#### 低公害車販売台数

新車販売、中古車販売共に、100%の低公害車となっております。 営業スタッフの欠員補充も5月には完了したので、2019年度は販売台数を伸ばしました。 当初目標の140台に対し219台を販売し、156%達成しました。

#### 目標未達成要因

#### 軽油 (化石燃料)

バイクの配送用に使用しているトラックの出動回数、配送距離が伸びた結果、 軽油の使用量が増加したことによる。

#### 廃プラスティック(ボックス)

2019年度は、最大取引先のバイクのリースアップ車両台数が増加したため、廃棄するボックスの数量も多くなったことに起因する。

#### エコ対応製品販売数 (エコタイヤ)

エコタイヤの年間販売本数は目標値500本に対し実績482本となり達成値は96%となりました。 エコ対応の添加剤類は、210本目標に対し、149本の実績で、本数目標は未達ではあったが、より 性能の良い高額な添加剤を販売できたことにより、売上目標額は111%の達成となった。 中古パーツの利用に関しては、バイク用は自社で作成しており、メカニックの人数に欠員が 出ている状況で、パーツ作成が間に合わず、82.5%の達成率となっている。

# 5 環境経営活動計画

#### 5.1 二酸化炭素 (CO2) 排出量

 $CO^2$ の排出起源は電力と化石燃料使用量に限定されるので目標としては電力と化石燃料の削減とする。

2019年度の換算係数は、目標値57,202に対し運用実績49,080と減少しました。

活動計画としては、公共交通機関の利用、社用車の相乗り、納車引取りの配車等、二酸化炭素排出量の削減に引続き務めます。

#### 5.2 電力

エコアクション21の認証より9年が経過しました。

照明器具の省エネ化、事務機器の省エネ化、不在時の消灯、残業の削減等により電力消費量が目標の42,000Kwから36,848Kwと目標数値を超えることができました。

下記項目を厳守し、更なる削減に努めます。

- ①不使用時の電源断の徹底
- A不使用時の消灯徹底

就業時間前後の空席エリアの消灯を徹底

昼休みの消灯(減灯)

残業時間の削減

B設備更新時には省エネ型機器・設備の購入

PC、プリンタ、コピー機、FAX、テレビ、プロジェクタ等

- ○コピー機/PCは省エネ運転モードに設定
- ® 蛍光灯は、省エネタイプのものに順次切り替え
- ②エアコン使用時の温度設定を以下のようにする

夏は26℃±1℃以上、冬は24±1℃以下(表示:設定、運転時間)

#### 5.3 化石燃料

灯油: 事務所と来客用スペースの兼用及び工場でのストーブ使用ですが、可能な限りこまめな温度設定を行い灯油の減少に努める。

ガソリン : ガソリンの使用に関しては、現在までも公共交通機関の利用、相乗、効率等を配慮した使用方法を 実施していますので引続き、継続しガソリンの使用量削減に努める。

軽油 :軽油の使用は、エルフ (ローダー・2 t トラック) の 2 台のみ使用しています。

業務内容により、出動回数や距離が変動するため予測は難しい。よって、今後も現状維持を 目指していきます。

#### 5.4 廃棄物排出量の削減

一般廃棄物排出量は、紙、缶、ペットボトル等の区別に加え、お弁当容器をリサイクルとしての区別も徹底し、排出量の削減に努める。

金属廃棄物排出量は、引き続き金属の買取業者に売却していく。

廃プラスティック排出量は、顧客先のバイク用のボックスのサイズが変更となり、ボックスの再生利用が 出来ず、廃棄以外の利用方法が見当たらない。

バイクや車のFRP製のパーツは修復再生可能なものを再利用していくことにより排出量の削減に努める。

①分別を徹底し、再利用・再生利用の比率を上げるとともに、排出量を低減する

金属・プラスティック廃棄物の資源化を推進

最終処分に回る廃棄物を減量する

- ②縮小コピー、裏紙の使用を推進。ミスした紙はメモ用紙などに転用する。また、書類のデーター化による ペーパーレス化に取り組んでいる
- ③再使用可能物品の社内有効利用
- ・不要資料の整理を行い、余剰となったファイルを再利用
- ④不要段ボール・弁当容器の再利用及びリサイクル用の排出
- ⑤再生インクカートリッジの使用、トナーの業者回収を継続
- ⑥廃棄物収集運搬/処理事業者との契約(その際 事業許可証の確認)
- (7)マニフェスト管理の完全実施

#### 5.5 水道・排水量の削減

目標 現状維持以下をめざす

- ① 資源節約のため、全員で節水に努めます(節水の注意書きを貼る)。
- ② 圧調整を図り、水の流し過ぎ等の無駄を抑制し、常に節水に努める(節水ゴマの設置)。
- ③ 雨水の貯留タンクは設置済のため再度、社員に雨水利用を徹底する。
- ④ 水漏れ箇所の点検・修繕

#### 5.6 エコ整備の推進

エンジン洗浄以外においてもエコ整備としての取り組みを進める。

- ①エコ整備の有用性について知識を習得し、わかりやすい説明やエコ整備技術向上に努める
- ②エコ整備、エコ車検の技術講習会への参加、社内での勉強会の開催
- ③エコ整備、エコ車検の認知度向上に努める
  - ・ポスター掲示など。顧客へのPRツールの作成・調査・研究
- ④エコ整備、エコ車検による燃費向上、排出ガス削減を認知してもらうようエコ整備のパック商品、などを今後検討していく。

#### 5.7 低公害車・次世代車両の販売の推進

- ①低公害車の販売を積極的に推進する
- ②衝突回避安全装置付きのサポートカーの販売も積極的に推進する
- ③同知識の習得
- ④顧客へのメリット説明に努める

#### 5.8 その他

社員への環境意識高揚のため、毎週1回の朝の地域清掃を継続していく。

# 6. 今年度以降の目標(次年度の取組内容)

2012年度(2012/1〜2012/12)と一部2011年度(電力・ガソリン・C0²は2010年度数字)を基準年度として3年間の環境負荷低減の目標を記載する。

			2012 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
環境負荷			2012 年 1 月	2019 年 1 月	2020 年 1 月	2021 年 1 月	2022 年 1 月
		単位	~2012年12月	~2019年12月	~2020年12月	~2021年12月	~2022年12月
			- , , 1	1- , 1- , 1		, ,,	, 1
			63,647	42,000	40,000	40,000	40,000
電力		Kwh	,	-34%	-37%	-37%	-37%
			7,700	7,700	6,500	6,500	6,500
	ガソリン	Q		前年維持	-15%	-15%	-15%
化石	軽油	Q	5,300	5,300	6,000	6,000	6,000
燃料			(前年維持)	(前年維持)	(前年維持)	(前年維持)	(前年維持)
	灯油	Q	1,250	1,250	1,000	1.000	1,000
			(前年維持)	(前年維持)	-20%	現状維持	(前年維持)
				57,202	50,000	50,000	50,000
CO2排出量		kg-CO <sub>2</sub>	59,264	,	,	,	,
			(6%)	(-15%)		(-15%)	(-15%)
水道•排水量		m³	数値目標設定	数値目標設定	数値目標設定	数値目標設定	数値目標設定
			せず節水に心	せず節水に	せず節水に	せず節水に	せず節水に
			がける	心がける	心がける	心がける	心がける
コピー用紙		kg	484	424	430	430	430
			現状維持	(前年維持)	(前年維持)	(前年維持)	(前年維持)
一般 廃棄物	可燃	kg	160	160			
			(前年維持)	(前年維持)			
産業 廃棄物	金属廃 棄物	kg	2,200	2,200	1,000	1,000	1,000
			(前年維持)	(前年維持)		(前年維持)	(前年維持)
	廃プラステ	kg	12.000	12,000	16,000	16,000	16,000
	イツク		(前年維持)	(全年維持)	10,000	(前年維持)	(前年維持)
			/ロュー小正]寸/	(工一作)寸/		(日リナー小仕1寸/	(四十十年)寸/
エンジン洗浄 促進台数		台		2	10	10	
			7		.0	.0	8
低公害車 販売台数		_					
		台	130	140	220	220	220
エコ対応製品販売数エコタイヤ			.50				
		本		500	500	500	500
エコ対応製品 販売数		本		210	150	150	150
		仕入額		1100	1.000	1.000	1.000
添加斉	ij	単位:千円		1120	1.200	1,200	1,200
エコ対応製品販売数 リビルト・ 中古部品		ジャイロ 個		600	500	500	500
		4輪パーツ			15	15	15
		仕入個数		251	250	250	250
		単位:千円		201	200	200	200

# 7 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

#### 7.1 適用となる主な環境関連法規

当社の適用する環境関連法規は以下の項目です

- 1、廃掃法
- 2、 グリーン購入法
- 3、 東京都の都民の健康と安全を確保する環境に関する条例
- 4、自動車リサイクル法
- 5、 東京都火災予防条例30条
- 6、 西東京市環境基本条例
- 7、 フロン排出抑制法
- 8、自動車NOx・PM法

### 7.2 違反、訴訟等

環境関連法規制/その他要求事項について期間中の違反事項はありませんでした。 また、過去3年間において関係機関等からの法規制違反の指摘及び訴訟などの請求はありませんでした。

# 8 環境経営活動の取組結果評価と見直し及び次年度の取組み

エコアクション21の認証 登録より9年が経過し、代表取締役をはじめとし、社員全員の努力や環境の変化、 自動車、照明、事務機器等々の入替により各環境負荷において、当初の二酸化炭素排出量よりなりの削減実績 となった。

ただ、現在までに削減出来るものは実施しており、今後のさらなる削減は環境にやさしい製品・サービスの販売増によって行っていく。

#### 8.1 CO<sup>2</sup> (電力の削減)

エコアクション21の認証 登録より今までに、展示場の水銀灯を無電極電灯に変更・工場の蛍光灯を E-COOLに変更・社員の意識による不使用時の消灯などを実施し、結果二酸化炭素排出量の削減が 数値となって表われている。また、事務職の残業削減により退社時間が早くなり、電力使用の削減に 寄与している現状を引き続き継続する。

#### 8.2 水道

整備車両入庫台数や販売台数が増加すれば、自然と水道の使用量が増加する傾向にある。しかし、雨水タンクの利用、洗車方法を含め、今後も節水意識を持ち続ける必要がある。

#### 8.3コピー用紙

毎月2回のイベント開催用チラシ作製でコピー紙も増加傾向にある。また、自賠責保険加入のコピー枚数も増え会社の経営方針の変化により削減は難しい状況にある。

現在努力しているが、更なるデーターベース化やメール、書類の共有、裏紙の使用等ペーパーレス化 を引き続き進める。

#### 8.4 廃棄物

一般廃棄物は、現在、紙・ペットボトル・缶・弁当用プラ容器のリサイクル回収を実施している。 引き続き継続し環境に配慮する。

産業廃棄物については、特に廃プラスチックのバイク用ボックスの再生利用が出来なくなり大幅に増加した。 今後、ボックスの再利用、その他産業廃棄物の削減の方法を検討する。

#### 8.5エコ整備・エコ車検

エンジン洗浄は、なかなかコスト面などで、お客様の承諾が得られず施工にまで至らない。

タイヤに関しては、すべての商品がエコ対応をしているため、更なる販売数量の拡大をめざし、且つエコタイヤの中でも、環境性能にフォーカスしたタイヤの販売数量を現在の2割を下回らないように努力していく。

燃料添加剤の販売促進は、声掛けを今後も続けていき、性能や効能等お客様の大切なお車のコンデションが良い状態を保てるよう、分かりやすく説明する努力をし、更なる目標を達成できるようにする。

リビルト・中古部品に関しては、自動車のリビルト部品の仕入高を更に上乗せできるようお客様への説明を丁寧にしていくほか、3輪バイクの事故修理に関しては、自社にてリサイクルパーツを作製しているので、今後はそちらの利用頻度を出来るだけ挙げていく努力をする。目標数値には件数目標にバイクのリサイクルパーツを含んだ数字に修正を行った。仕入金額数字は、自動車部門のみの数値となっている。

#### 8.6低公害車販売促進

欠員していた営業スタッフの補充も完了し、販売台数目標をクリアした。また、実際に販売した車両は全てエコ対象車であった。

2020年度は更なる販売台数増加の為の努力を行っていく。

新車に関しては低公害車販売促進に問題はない。新車の販売台数を増やせば自然と低公害車販売促進 につながる。今後もハイブリッド車などを含む新車の販売台数の増加に努力する。

中古車に関しても、自動車業界の流れから大半が低公害車に入れ替わってきており、低年式自動車の入庫が減りつつある・

# 9 代表者による全体の評価と見直し

#### 9.1 経営システム

経営システムは順調に働いているので、このまま継続する。

#### 9.2 環境方針

方針そのものは、企業活動に見合っているので、このまま継続する。

#### 9.3 環境目標

環境への取り組みも、経済活動を行いながら、継続していくと、数値を減少させていくだけでは、限界がある。 今後は、営業活動と共存できる方向で、環境に優しい商品・サービスを提供していく方向に重点を置いていきたい。 エコタイヤ、添加剤関連の商品の販売実績を今後も伸ばせるように新規入社した社員にも教育指導を行っていく。 また、廃車予定のバイクより再生したリサイクル部品の利用に関し自社工場のみならず提携工場への支給を含め、 積極的に取り組んでていくようにする。

代表である私自身も2012年より市長への諮問機関である西東京市環境審議委員会の委員として、約6年に亘り活動をし2018年5月をもって任期満了となったが、今後もそこで得た経験を活かし積極的に地域との連携などを考えていきたい。

#### 9.4 環境活動計画

環境活動は、計画通りに推移しているので計画通りに継続する。

#### <取り組み状況>

蛍光灯器具からE-COOLへ変更



一部は間引きを行っています



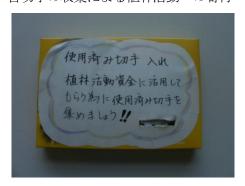
雨水タンクの設置により雨水の有効利用



展示場の水銀灯をLED電灯へ変更



古切手の収集による植林活動への寄付



近所へのお使いは自転車でエコ!



工場の中でもごみは細かく分別しています 使用済みウェス 金属ごみ



リサイクルごみは細かく分別しています(業者さんが回収にきます)



スティール缶



アルミ缶は植林友好協会へ寄付 ペットボトル





弁当容器など

週に一度、近隣の道路の清掃や、公園の草むしりなどを全社員で実施しています。 社員の環境への意識向上につながっています。

#### 週一度の清掃



廃バッテリーは業者さんが回収してくれます



工場内の油水分離層は定期的に清掃しています



事務所の前も花を育ててお客様をお迎えします



環境対応車を積極的に販売します!



車の燃費向上のご案内をし、添加剤を積極的に販売しています。

また、従来の発煙筒の代わりに、電池式の非常信号灯を ご案内することにより、期限切れによる廃棄発煙筒の 削減を推進しています。



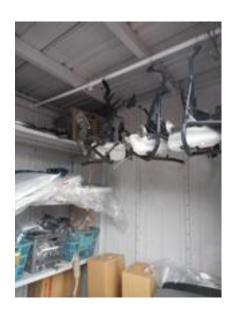


## 宅配バイク用リサイクル部品の作成・在庫管理

カウル・リヤカバー・ボックスなどの大型部品に関し、廃車予定のバイクから外し、洗浄、ペイントなどを施し自社にて中古部品の再生をしている。部品庫も用意し、在庫管理を行っている。







廃車予定の車両からエンジンを下ろし、OHを行いリサイクルエンジンを常に3基準備している。



#### <次の1年へ向けての取り組み計画>

自動車業界全体としては、100年に一度の変革期と言われ、電動車、水素車、自動運転車、衝突安全ストップ車など次世代の車両の開発が進んおります。まずは民間企業としては、その変革の中で淘汰されないような存続の努力が第一となっておりますが、新技術の車両に関してもどのような環境への取り組みが出来るかを今後も鋭意努力しながら、探って参りたいと思っております。

また、宅配用バイクの整備に関しては、全国の提携工場約70社に保守委託をしていることもあり、整備、事故修理などに必要とする部品を自社のみならず、他社用として支給することが多々ありますが、それら部品を新品ではなく、廃車予定のバイクより外し自社にて再生したリサイクル部品や、OHエンジンなどを支給するような取り組みを本格化し1年が経過しております。今後、この部分を更に伸ばし、環境に優しいバイク整備を提携工場分も含め、取組んでいきたい。

日本の行政の中で最高水準の一般ゴミのリサイクル率を誇る西東京市に存在する企業として、弁当容器のリサイクルを開始するなど、事業ゴミの削減努力をより一層していきたい。

また、事務所内のゴミの分別をより一層厳しく行い、リサイクルゴミが一般ゴミと混在しないよう徹底して参ります。

また、西東京市の環境審議委員として活動を行った経験も無駄にせず、今後は地域にて営業活動を行っている企業として、他の企業とも連携する道を模索しつつ、微力ながら、地域への貢献といった地道な努力を継続していき、社員の環境への更なる意識向上と共に、地域住民の皆様にも当社の環境への取り組み姿勢を理解して頂くよう環境基本方針に基づき、より一層環境問題に取り組む姿勢を内外に示して参ります。

株式会社オートアベニュー 代表取締役社長 伊藤 理香